

- ・募集期間：2022年9月15日～11月15日
- ・応募数：959句
- ・審査員：中日川柳会会長 荒川八洲雄氏

「なくそう！海洋ごみ 川柳コンテスト」入賞作品一覧

賞	作品	作者／雅号（市町村）	作者の思い	審査員コメント
最優秀賞	ゴミ捨てて 母なる海を 泣かせるな	大浜 勝さん （名古屋市）	海は豊饒の象徴、生命を生み出し、且つ現実的には大昔から魚や作物などを人間に与えてきました。そんな母になぞらえる海をゴミで汚すことは生命を絶やしてしまうことに繋がる懸念大であります。	海は多様な生物を育み、漁業、海運など人間の営みにも深く関り、「母なる海」と言われています。海洋汚染の防止は喫緊の課題で、SDGsにも「海の豊かさを守ろう」があります。「母なる海を泣かせるな」に共感します。
こども優秀賞	おさかなに ゴミのごはんを あげないで	長岡 未桜さん （名古屋市）	おさかながまちがえてゴミをたべないようにきをつけてあげる。	こども部門は全学年から応募があり、みなさんが日頃から海の汚染に関心が深いことを知りうれしく思います。本作品の作者は一年生。「ゴミのごはんをあげないで」に魚たちを心配する気持ちがよく伝わります。
優秀賞	今できる スリーアールで 海守る	向日葵さん （日進市）	小学生の頃、授業で環境問題に触れてからすぐに下校の時には毎日ごみ拾いをしながら帰ったことを思い出しました。その時に学んだ3Rは家庭ですぐに実行できるところであり、海を守ることに繋がるのではないかと思いました。	私たちが日常生活の中でスリーアール（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底すれば、ごみの排出量は大きく減り、きれいな海を取り戻せるとの思いに賛成です。自分に出来ることを今日から始めましょう。
優秀賞	ウミガメも にっこり浜の ごみ拾い	D51（デゴイチ）さん （犬山市）	産卵場所を確保してくれるボランティアのごみ拾い等の活動に感謝するウミガメ。	生まれ故郷へ戻って産卵するウミガメの数が減っています。安全な産卵場所を確保するため、多くのボランティアが浜を見守り環境整備に努めています。彼らを見てウミガメもきっと「にっこり」することでしょう。
佳作	このままじゃ 竜宮城も ゴミ屋敷	青山 薫さん （犬山市）	いつまでもタイやヒラメの舞を見たい。	プラスチックごみの海への流入量は毎年800万トン以上と推計されています。「竜宮城」もゴミに囲まれては乙姫様も優雅に過ごすどころではありません。きれいな海でこそ「竜宮城」。浦島太郎の話を思い出しました。
佳作	ヘルプヘルプ マイクロプラに 叫ぶ海	倉知 武好さん （春日井市）	魚に成り変わり海が叫んでいます。	分解されず海の生態系に大きな影響を与えるため「マイクロプラスチック問題」が世界的な課題となっています。早くプラスチックごみを減らしてとの海の叫びが聞こえます。「ヘルプヘルプ」に切実感が伝わります。
佳作	ポイすては 負のじゅんかんの 始まりだ	武田 隆康さん （豊橋市）	ポイ捨てすることによってゴミが海に行き、海の生き物がまちがえて食べてしまつて人間に帰ってくる。それをなくそう、生き物や環境を守るために。	街中などに捨てられたペットボトルは砕けたりしながら海に流れ出ます。やがてマイクロプラスチックとなり魚類の体内に入り、それを食べる人間に戻ってきます。まさに「負の食物連鎖」です。
佳作	捨てられて 10年100年 海の底	安田 直人さん （刈谷市）	プラスチックのゴミはずっとなくならない。ずっと海に残っている。それが環境を破壊する原因にもなる。だから絶対に捨ててはいけない。	海に流れ込んだごみは海底にどんどん堆積しています。プラスチックごみは分解しないため、これ以上増やさないよう世界が協力して取り組むことが求められています。堆積したごみの処理は長期戦と見る作者の考えに頷きます。
佳作	ビニールで 腹を満たして 逝くクジラ	山下 宗一郎さん （岡崎市）	先日、新聞で食べたビニール袋が消化されずに満腹になってしまい、餓死してしまったクジラのことを知りました。人間が捨てたゴミで海洋生物が苦しんでいることを多くの方々に知ってほしいという気持ちを川柳にしました。	海洋を回遊するクジラは口を開けてプランクトンを飲み込んでいます。浮遊するビニールやプラスチックごみを選別することができず、沢山のビニールが胃袋に溜まり死んだクジラがいます。なんとも痛ましい光景です。

※優秀賞、佳作に順位はありません